



ロイロノートを活用した「話すこと [発表]」と「書くこと」の技能を高める取組
(Here We Go! ENGLISH COURSE 2 Unit4 Tour in New York City)

①話・発

①書く

②個・学

②評価

③タブ

④ロイロ
ノート

④Google クラクルーム

④Google ドキュメント

④Zoom

【ここがポイント！】

①「Zoom でスモールトーク」

Zoom のブレイクアウトルームの機能を活用し、生徒が移動することなく瞬時にペアを変え、やり取りを行う。

②「ロイロノートの付箋機能を活用」

ロイロノートの付箋機能を活用し、自分が ALT に紹介したい場所の情報を整理する。ロイロノートを活用することで、付箋の位置を自由に動かすことができ、思考整理がしやすくなる。また、その付箋をもとに、相手に伝える練習をすることで、話すこと（やり取り）の力が身に付く。

【実践の目標】

初来日する ALT の家族のニーズに合った三次紹介をするために、家族の情報や自分の考えを踏まえたまとまりのある英文を書くことができる。

【実際の場面】

1. Zoom でスモールトーク【帯活動】

Zoom のブレイクアウトルームを活用し、生徒が移動することなく瞬時にペアを変え、やり取りを行うことができる。より多くの生徒とやり取りができた。

2. ALT にインタビューをし、ALT の家族の情報収集をする

ALT の家族がどのようなことが好きで、どのようなことに興味があるのかを聞き、ロイロノートの付箋にメモをした。



3. 情報整理をする

前時で得た ALT の家族の情報をもとに、どの場所を紹介するか決め、その場所の情報をロイロノートの付箋にメモをし、情報整理した。

4. ペアでやり取りする

生徒役と ALT 役に分かれ、ロイロノートの付箋を基にやり取りを行った。ALT 役は生徒役の内容に対して質問をする。その質問の答えをさらにロイロノートの付箋に追加した。その後、再び個人練習をした。

5. ALT に紹介をする

生徒はロイロノートの付箋のみをもとに、ALT に三次紹介をした。

6. パンフレットを作成する

ALT に伝えた内容を基に、三次紹介のパンフレットを Google ドキュメントで作成し、Google クラクルームに提出した。

7. 相互チェックをする

グループでパンフレットの原稿チェックをし、文法ミスなどを確認した。完成したものを Google クラクルームに提出した。

【成果と課題】

【成果】

- ロイロノートの付箋は自分が好きなど自由に動かすことができ、思考整理がとてもしやすく、話すこと（発表）の技能を高める有効な手立てとなった。
- 生徒たちは端末操作に慣れ、スムーズに使えることができたようになった。
- 成果物をデータで提出することで、添削がしやすくなった。
- タブレットを活用することで、時間短縮でき、その分言語活動の時間を十分確保することができた。

【課題】

- タブレット操作には慣れたものの、タイピングが苦手な生徒がおり、ドキュメントを作成するのに時間がかかる生徒がいる。必要に応じてノートに書かせるなど、手立てが必要である。